

令和6年度 長野県医療的ケア児等支援センターシンポジウム

「学校卒業後の暮らしを考える」

日時：令和6年12月10日（火）13:00～16:00

会場：岡谷カノラホール小ホール

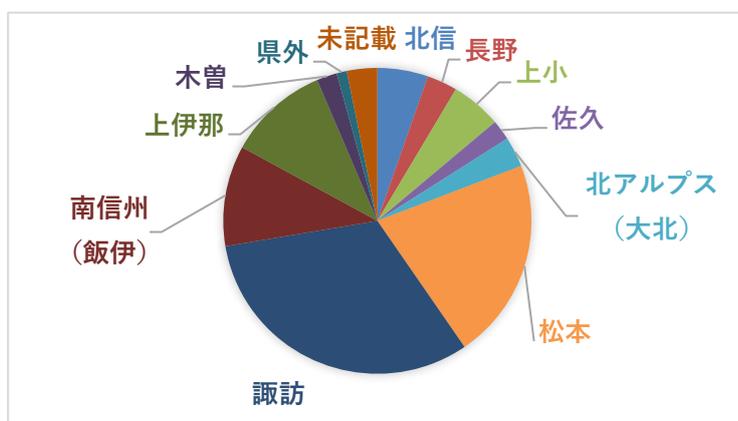
1. 参加者の基本属性（参加者数 94 名）

(1) 圏域

表1 圏域

圏域	回答数 (n)	%
北信	5	5%
長野	3	3%
上小	5	5%
佐久	2	2%
北アルプス (大北)	3	3%
松本	20	21%
諏訪	30	32%
南信州 (飯伊)	10	11%
上伊那	10	11%
木曾	2	2%
県外	1	1%
無回答	3	3%
全体	94	100%

図1 圏域 (%)

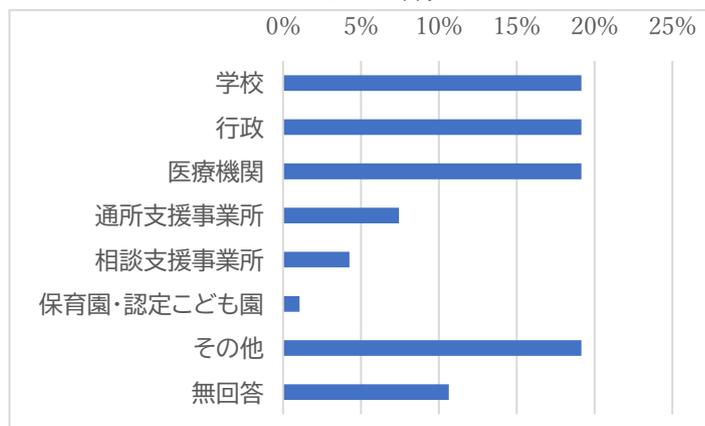


(2) 所属

表2 所属

所属	回答数 (n)	%
学校	18	19%
行政	18	19%
医療機関	18	19%
通所支援事業所	7	7%
相談支援事業所	4	4%
保育園・認定こども園	1	1%
その他	18	19%
無回答	10	11%
計	94	100%

図2 所属



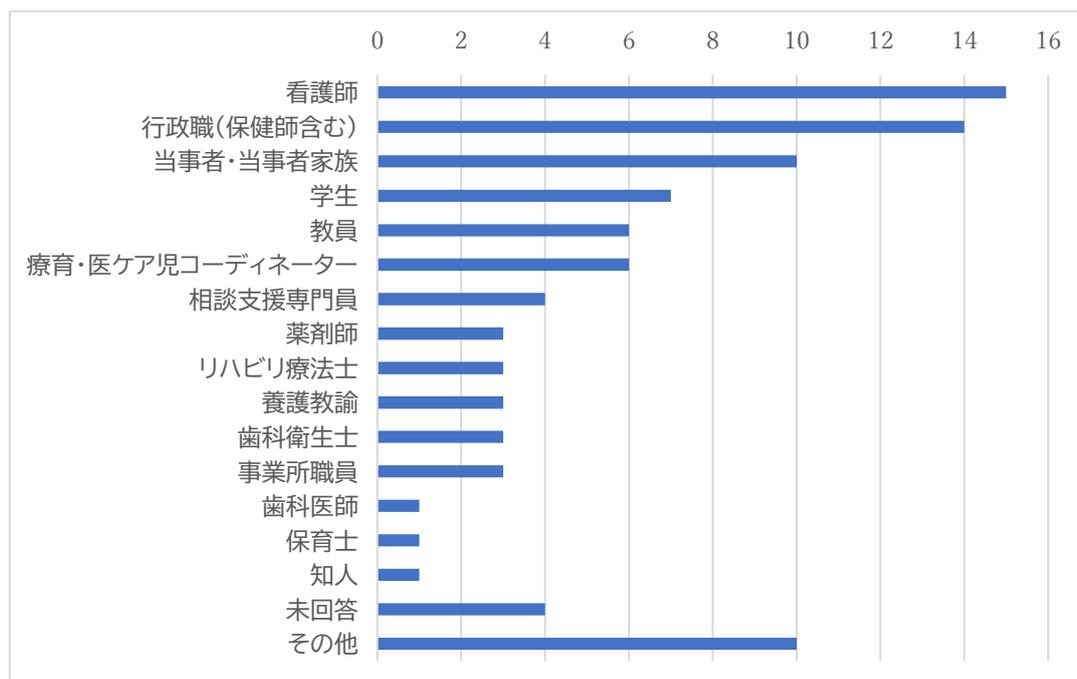
### (3) 職業

表3 職業

職種	回答数 (n)	%
看護師	15	16%
行政職(保健師含む)	14	15%
当事者・当事者家族	10	11%
学生	7	7%
教員	6	6%
療育・医ケア児コーディネーター	6	6%
相談支援専門員	4	4%
薬剤師	3	3%
リハビリ療法士	3	3%
養護教諭	3	3%
歯科衛生士	3	3%
事業所職員	3	3%
歯科医師	1	1%
保育士	1	1%
知人	1	1%
その他	10	11%
無回答	4	4%
計	94	100%

図3 職業

(人)



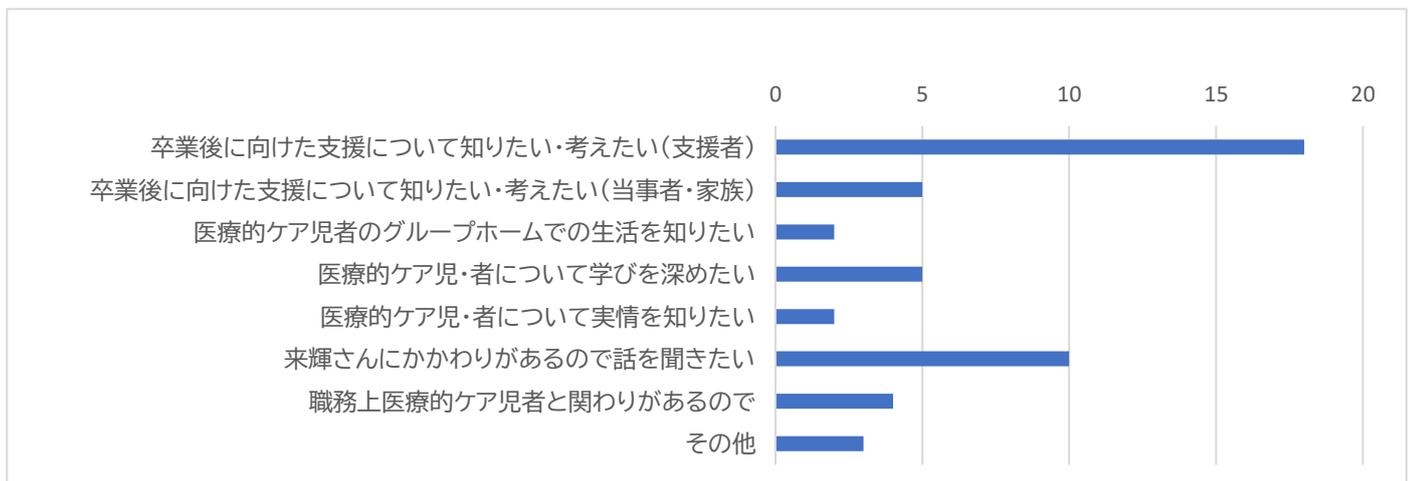
#### (4) 本日参加された理由 (回答数 49 : 52%)

表4 本日参加された理由

	回答数(n)	%
卒業後に向けた支援について知りたい・考えたい(支援者)	18	37%
卒業後に向けた支援について知りたい・考えたい(当事者・家族)	5	10%
医療的ケア児者のグループホームでの生活を知りたい	2	4%
医療的ケア児・者について学びを深めたい	5	10%
医療的ケア児・者について実情を知りたい	2	4%
来輝さんにかかわりがあるので話を聞きたい	10	20%
職務上医療的ケア児者と関わりがあるので	4	8%
その他	3	6%
計	49	100%

図4 本日参加された理由

(回答数)



#### (5) 本日の感想を自由にご記入ください。

##### ○ 感想 (抜粋)

- ・ 医療的ケアがあってもグループホームで一人暮らしを実現する話が素晴らしいと思った。無理と思っていたことが可能であることを知り、前向きな気持ちになった。
- ・ ご自身の努力と成長に深く感銘を受け、自分自身の生き方を見つめ直す機会になった。
- ・ 「ルールを壊す」という考え方や支援の姿勢に刺激を受けた。
- ・ 意思決定や自己選択を支える重要性を学んだ。
- ・ 医療・福祉・教育・地域連携の具体的な仕組みや成功事例を知ることで、今後の支援に役立てたいと感じた。
- ・ 現場での多職種連携の重要性や、具体的な実践例に触れることができた。
- ・ 「本人が主役」という考え方が支援の大きな方向性を示している。
- ・ 「一人暮らしをしたい」「大谷選手に会いたい」というご本人の夢や目標に向かう姿勢、そしてそれを支える支援チームの尽力に敬意を感じた。
- ・ 「力を借りる覚悟」という考え方に感銘を受けた。

### ○課題

- ・ 担当者や地域によって支援の格差が生じる懸念がある。全県統一のシステムを整備する必要性を感じた。
- ・ 医療的ケアが必要な人々の生活選択肢が少ないことを改めて認識した。

### ○支援への取組と地域社会

- ・ 地域での支援体制の構築や資源の開拓の重要性を再認識した。
- ・ 諏訪圏域の事例を参考に、他地域でも取組を広げる必要性を感じた。
- ・ 地域住民として、どのように支えられるかを考えるきっかけとなった。

### ○ 今後への意欲

- ・ 医療的ケアが必要な子どもたちの支援に、自分ができることを実践していきたい。
- ・ 資源開拓やチーム作りを通じて、地域社会の支援体制を強化していきたいと感じた。

## (5) IoTによる遠隔見守りシステム(スマートアラートシステム)の活用について、グループホームのほかにどのような場面で活用できると思いますか？

### ○活用を期待できる場

- ・ 学校の体験学習、修学旅行
- ・ 養護学校
- ・ 支援学級、地域活動場面において
- ・ 高齢者独居
- ・ 入所施設
- ・ 1人暮らしのアパート、独居高齢者、高齢の両親の見守り
- ・ 避難所
- ・ 在宅であれば親が休めるのでは
- ・ 自宅でも活用できると思う。ぜひ欲しい。親が一人の時に、目を離れたとしてもお知らせがあれば安心。
- ・ 登下校、校内、外出先はもちろん自宅で安心して暮らすため。または医療者とはいえ慣れてはいない人が預かり見守るような環境でも使えると思う
- ・ 車での移動時

### ○ご意見

- ・ システムの支援の整備も必要ですが、訪問看護師など、人的支援との両方が充実してほしい
- ・ 見守りシステムは、夜中何度もドキドキして見守りしたスタッフさんを思うと、(大切なアラームとは思いますが)、まだもう少し精度が上がらないと使うのは心配と思いました。